第3次豊田市教育行政計画最終評価報告書

（計画期間 2018～2021 年度）

豊田市教育委員会

令和4年8月

目　次

第３次豊田市教育行政計画最終評価報告書 1

１　はじめに 2

２　本市の教育行政の沿革 3

３　計画全体の評価 6

４　重点施策の評価 12

５　基本施策の評価 20

Ⅰ　第３次豊田市教育行政計画最終評価報告書

1　はじめに

第 3 次豊田市教育行政計画は、学校教育、生涯学習、スポーツ、文化財及び文化芸術の各分野を包含する、本市の教育行政における基本的かつ総合的な計画であり、教育基本法の規定に基づき、地域の実情に応じて定める、教育の振興のための施策に関する基本的な計画です。

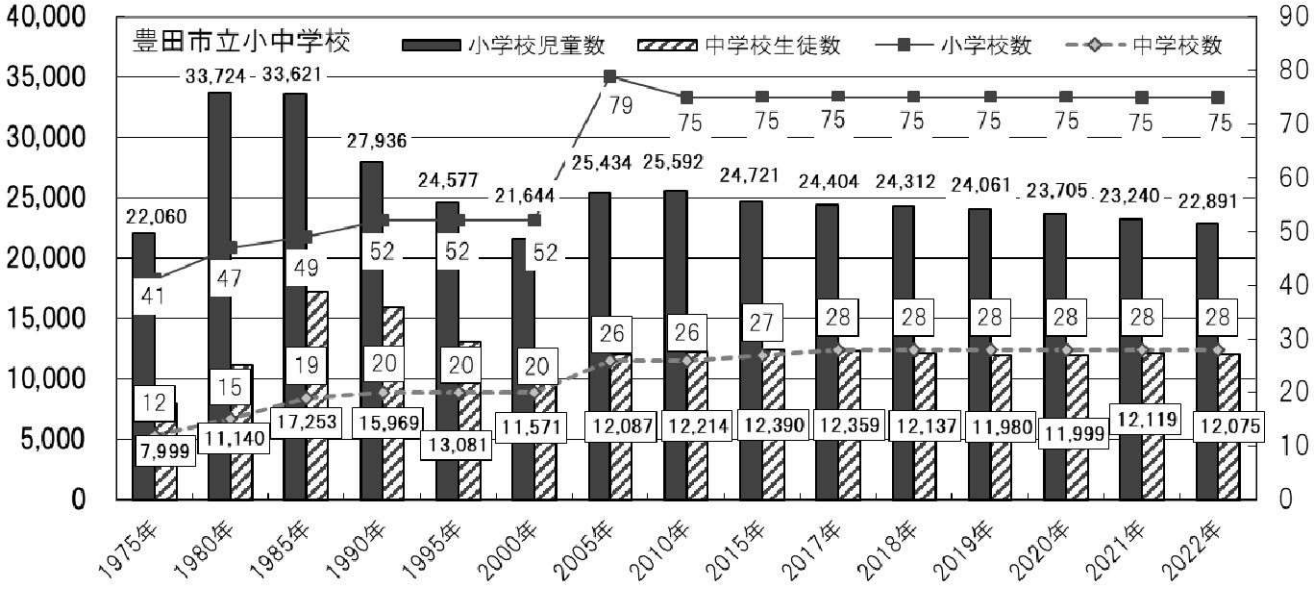
2018 年 3 月に、「多様な市民一人ひとりが自ら学び、地域と共に育ち合う教育の実現」を基本理念とした計画を策定し、様々な施策を実施し、教育の振興・発展に努めてまいりました。このたび、2022 年 3 月をもって、4 年間の計画期間が終了しました。本報告書は、第 3 次豊田市教育行政計画の 4 年間の総括として、取組実績・評価をとりまとめたものです。

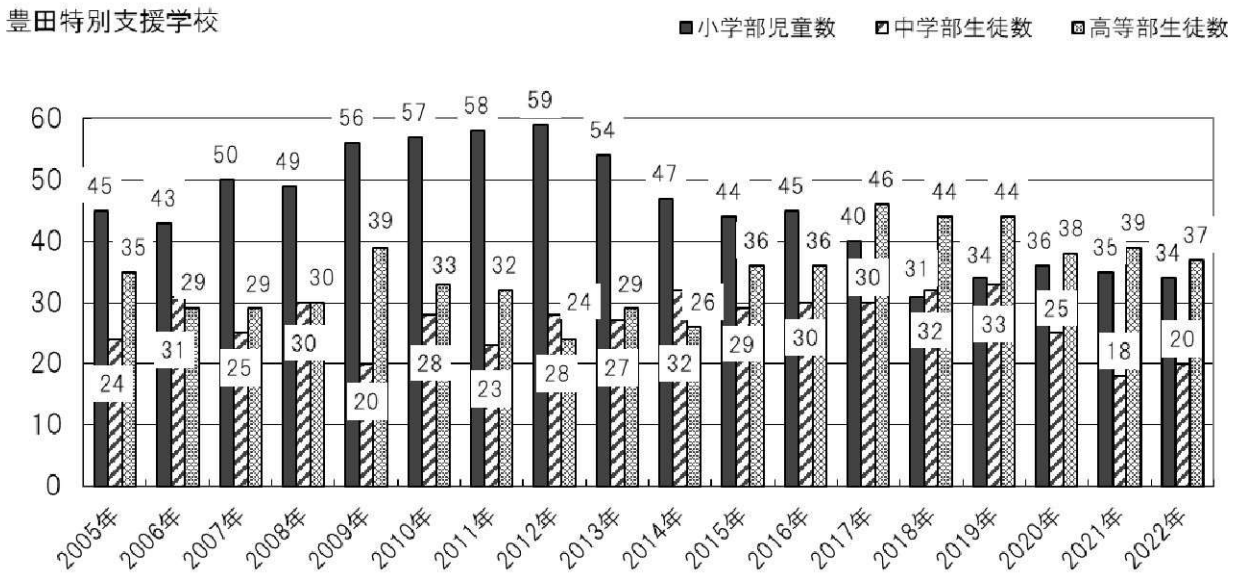
今後は、第 4 次豊田市教育行政計画（2022～2025 年度）において、「未来を拓（ひら）く学び合い」をキーワードに着実な計画推進に努め、教育の振興・発展を進めていきます。

2　本市の教育行政の沿革

（1）児童生徒数と学校数の推移

2022 年 5 月 1 日現在の児童生徒数は小学生 22,891 人、中学生 12,075 人であり、2017 年に比べ、小学生は 1,513 人減少、中学生は 284 人減少しています。学校数については、2022 年 5 月 1 日現在、小学校 75 校、中学校 28 校です。





(2)教育予算の推移

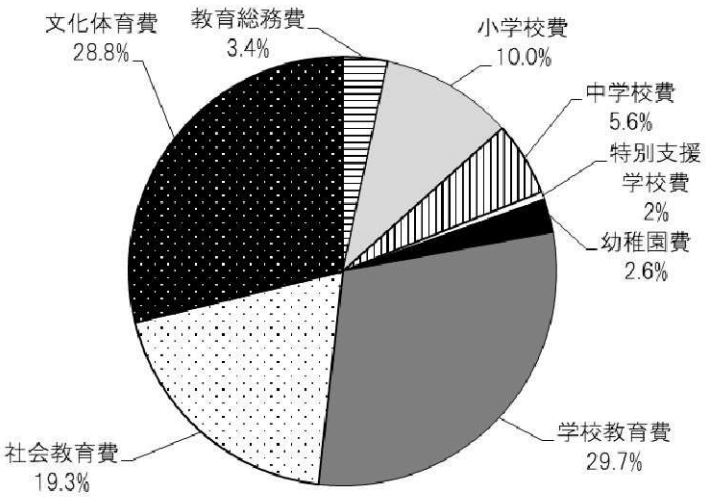
2022 年度の豊田市の一般会計当初予算は 1,801 億円であり、そのうち教育費は約 267 億円です。2017 年度に比べ、それぞれ 18 億円、約 52 億円増加しています。

ア　一般会計と教育費の推移（当初予算ベース）

項目　　年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
一般会計（千円）A	178,300,000	180,300,000	184,300,000	182,600,000	179,800,000	180,100,000
教育費　（千円）B	21,500,523	27,302,229	27,138,155	26,531,150	27,656,631	26,694,423
構成比　（%）B/A	12.1	15.1	14.7	14.5	15.4	14.8

イ　2022 年度教育費の構成

目　　的	予算(千円)
教育総務費	901,422
小学校費	2,670,678
中学校費	1,494,971
特別支援学校費	149,635
幼稚園費	683,201
学校教育費	7,938,189
社会教育費	5,155,346
文化体育費	7,700,981
計	26,694,423



（3）主な出来事

年	月	主な出来事
平成 30 年	3 月	第3次豊田市教育行政計画策定
	4 月	「生涯学習センター交流館」を「交流館」に名称変更し、市長部局へ移管
平成 31 年 令和元年	1 月	（仮称）豊田市博物館基本計画策定
	6 月	美術館リニューアルオープン
		全小中学校にエアコン設置
	8～10 月	あいちトリエンナーレの開催
令和2年	3 月	藤岡交流館移転新築
	4～8 月	新型コロナウイルス感染症拡大に伴う小・中・特支臨時休校等
	4 月	条例により、文化芸術・スポーツ・文化財に関する事務を市長部局に移管
		教育委員会が1部制（教育部）に変更
		北部給食センター完成
	6～10 月	学校給食費無償化
令和3年	1 月	児童生徒1人1台タブレット端末導入
	3 月	朝日丘中学校校舎増築
	4 月	令和3年度「子供の読書活動優秀実践学校・図書館・団体（個人）表彰」 文部科学大臣賞
	9 月	豊田特別支援学校調理場増築
令和4年	2 月	『第 25 回「図書館を使った調べる学習コンクール」地域コンクール』 主催者表彰総務大臣賞
	3 月	第4次豊田市教育行政計画策定

朝日丘中学校　増築校舎

3　計画全体の評価

(1)第3次豊田市教育行政計画の体系

基本理念

多様な市民一人ひとりが自ら学び、地域と共に育ち合う教育の実現

めざす人物像

- 10年程度の長期的な目標
- 第2期豊田市教育大綱と整合

- 生涯にわたって、自ら楽しく学び・育ち続ける人（自立）
- 夢に向かって挑戦し、未来を切り拓く人（創造）
- 豊田市の多様な魅力を分かち合い、次代へ継承・発信する人（郷土愛）
- 互いに認め合い、助け合いながら、共働によるまちづくりに取り組む人（共働）

重点施策

- めざす人物像の実現に向けて計画期間内に注力する施策
- 国・社会の動向、市の現状と課題から設定
- 「地域ぐるみで学び合い」をキーワードとして推進

施策名	重点事業名
1 一人ひとりの学びの確保	●きめ細かな教育推進事業 ●いじめ・不登校対策事業 ●特別支援教育の推進事業 ●外国人児童生徒教育事業
2 課題を解決する力の育成	●「主体的・対話的で深い学び」推進事業 ●ＩＣＴ活用・整備推進事業 ●学び続ける教員の育成推進事業
3 地域資源を生かした学習・活動機会の創出	●市民によるアートプロジェクト推進事業 ●トップアスリート・スポーツチーム応援・活用事業 ●郷土学習推進事業 ●ものづくり教育プログラム事業
4 家庭・学校・地域の共働の推進	●コミュニティ・スクール推進事業 ●地域学校共働本部設置拡大事業 ●家庭教育支援事業 ●スポーツ習慣促進事業

基本施策

●めざす人物像の実現に向けた各分野における主要な施策
●分野は、第８次豊田市総合計画の施策体系と整合

分野	施策名	施策の柱
学び・育ち	1 生き抜く力を育む学校教育の推進	①学びのつながりや地域とのつながりを重視した教育の推進
		②確かな学力を育む教育の推進
		③豊かな人間性を育む教育の推進
		④たくましく生きるための健康・体力を育む教育の推進
	2 安全・安心で快適に学べる教育環境の充実	①学校施設整備の推進
		②学校施設環境の充実
		③給食調理環境の整備
	3 暮らしを豊かにする学習活動の支援	①市民の活躍を支援する学びの場の充実
		②図書資料を通じた出会いと交流の促進と課題解決の支援
		③子どもの読書活動の推進
	4 地域による次世代人材の育成の促進	①小・中学生が主体的に活動できる機会の充実
		②高校生・大学生の社会参加活動の促進
		③自立に困難を抱える若者の支援
		④家庭教育力の向上
	5 まちへの誇りや愛着につながるものづくり学習の推進	①ものづくりや科学に興味・関心を高める機会の充実
		②高度なものづくりや科学を学ぶ機会の充実
スポーツ	6 スポーツ資源を生かした生涯スポーツの推進	①スポーツを「する」機会の拡充
		②スポーツを楽しむ風土の醸成
		③スポーツを「支える」人材の育成
歴史・文化	7 歴史や文化財の継承と価値や魅力の発信	①歴史を継承・発信する基盤・機会の充実
		②市民力を生かした博学連携・歴史継承の促進
		③歴史が息づく魅力的なまちづくりの推進
	8 文化芸術を生かしたまちの魅力づくりの推進	①文化芸術に触れる機会の充実
		②文化芸術活動を担う人材の育成
		③文化施設の機能・価値の向上

(2)計画全体の進捗状況

重点事業と基本事業を合わせた全 70 事業のうち、分野別の進捗状況は以下のとおりです。分野ごとにみると、①学び・育ち分野は約 78%、②スポーツ分野は 75%、③歴史・文化分野は約 95%の事業が順調に進んでいます(完了した事業を含む)。

進捗状況から、過去 4 年間の本計画事業の推進については、概ね予定どおり推進できました。一方で、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、遅れ、延期・中止となった事業もあり、今後は事業手法の見直し等を検討する必要があります。

なお、校舎や給食センターの増改築事業をはじめ、学校空調設備設置事業、スポーツ施設整備事業、文化事業等の 8 事業については、本計画事業期間内に予定通り完了しました。

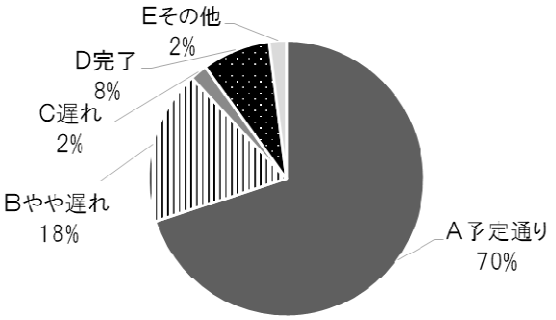
重点:重点事業の数

	事業数	A予定通り	Bやや遅れ	C遅れ	D完了	Eその他	A+D
①学び・育ち	40	28 (重点 6)	7 (重点 4)	1 (重点 1)	3	1	31 (78%)
②スポーツ	8	4 (重点 2)	2	0	2	0	6 (75%)
③歴史・文化	22	18 (重点 2)	0	0	3	1	21 (95%)
全　体	70	50 (72%)	9 (13%)	1 (1%)	8 (11%)	2 (3%)	58 (83%)

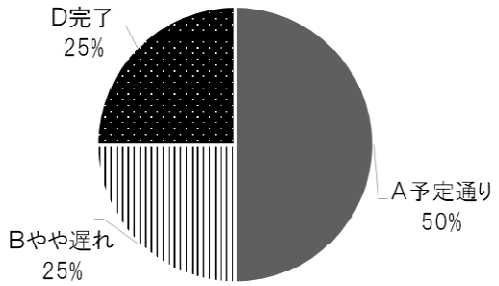
※進捗状況の区分:取組計画に対する進捗状況をA～Eの5つに区分

A:予定通り(90%以上)、B:やや遅れ(50%以上 90%未満)、C:遅れ(50%未満)、D:完了、E:その他(延期・廃止等)

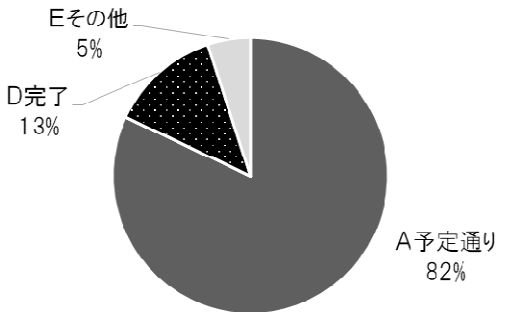
学び・育ち分野(40事業)の進捗状況



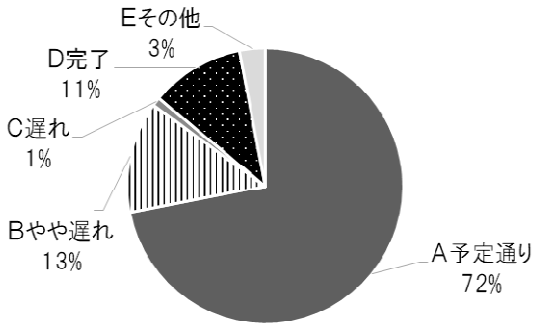
スポーツ分野(8事業)の進捗状況



歴史・文化分野(22事業)の進捗状況



事業全体(70事業)の進捗状況



（3）重点施策における状態指標

重点施策の状態指標の中で、めざす方向に進展した項目は、重点施策1「学校生活に満足している児童生徒、保護者の割合（小学生）（中学生）」、「自分には、よいところがあると思う児童生徒の割合（小学生）（中学生）」、重点施策2「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある児童生徒の割合（小学生）」、重点施策3「自分の住む地域が大好きだという児童生徒の割合（中学生）」、重点施策4「地域の行事や活動に参加している児童生徒の割合（中学生）」の 7 項目です。

一方で、重点施策 2 の「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある児童生徒の割合（中学生）」や「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していると思う児童生徒の割合」は、実績値が減少しました。

子どもたちがこれからの時代に求められる資質･能力を身に付けるために、きめ細やかな教育を引続き進めるとともに、子どもを主体とした授業改善の取組を活性化していくことが課題となっています。特に子どもたちの「自分で考え、判断する力」については、2020 年度に実施した「豊田市の教育に関するアンケート調査」でも、学校が力を入れて伸ばしていくべき児童生徒の力として、市民 51.2%、保護者 56.1%、教員 50.7%、校長･教頭 67.2%と、いずれの対象においても上位となっています。

このことについては、第 4 次豊田市教育行政計画においても、「自らの可能性を広げる力の育成」として重点施策1に掲げています。「主体的･対話的で深い学び」推進事業や ICT 活用･整備推進事業等を通して、未知の状況にも対応できる思考力･判断力･表現力を育成し、学びに向かう力や人間性を育んでいくことが重要です。

また、重点施策 4 の「1年以内に、小･中学校の活動又は児童生徒とともに行う地域の活動に参加した市民の割合」も大きく減少しました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けていると予測されますが、今後も家庭･学校･地域の共働の推進は必要です。第 4 次豊田市教育行政計画においても、コミュニティ･スクール／地域学校共働本部推進事業や地域との連携等による教職員多忙化解消推進事業を通して、地域ぐるみの教育を推進していきます。

状態指標の状況一覧（実績値下線：めざす方向に進展した項目）

状態指標		めざす方向	計画当初	実績値
重点施策1	学校生活に満足している児童生徒、保護者の割合 ①小学生　②中学生　③保護者 【出典：豊田市の教育に関するアンケート調査】	⇧	①82.3% ②75.3% ③72.8% （2016）	①<u>83.7%</u> ②<u>75.6%</u> ③68.9% （2020）
	自分には、よいところがあると思う児童生徒の割合 ①小学生　②中学生 【出典：全国学力･学習状況調査】	⇧	①77.8% ②66.3% （2017）	①<u>80.0%</u> ②<u>75.7%</u> （2021）

状態指標		めざす方向	計画当初	実績値
重点施策2	ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある児童生徒の割合 ①小学生　②中学生 【出典：全国学力・学習状況調査（2017）：中学3年生、教科等に対する意識調査（2021）：中学2年生】	⇧	①68.1% ②73.7% （2017）	①70.5% ②59.1% （2021）
	難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していると思う児童生徒の割合 ①小学生　②中学生 【出典：全国学力・学習状況調査】	⇧	①72.9% ②65.6% （2017）	①69.6% ②60.0% （2021）
重点施策3	豊田市や住んでいる地域に愛着を感じている市民の割合 【出典：市民意識調査】	⇧	76.7% （2016）	76.4% （2021）
	自分の住む地域が大好きだという児童生徒の割合 ①小学生　②中学生 【出典：教科等に対する意識調査】	⇧	①55.4% ②27.4% （2017）	①55.4% ②29.3% （2021）
重点施策4	地域ぐるみで子どもの教育ができていると思う市民の割合 【出典：豊田市の教育に関するアンケート調査】	⇧	29.2% （2016）	29.1% （2020）
	1年以内に、小・中学校の活動又は児童生徒とともに行う地域の活動に参加した市民の割合 【出典：市民意識調査】	⇧	28.6% （2016）	15.0% （2021）
	地域の行事や活動に参加している児童生徒の割合 ①小学生　②中学生 【出典：豊田市の教育に関するアンケート調査】	⇧	①82.1% ②69.7% （2016）	①80.0% ②70.3% （2020）

（4）重点事業における成果指標の達成度

重点事業15事業のうち、成果指標の各課による達成度については、1事業が◎（大変良い）、13事業が○（良い）となっています。△（改善を要する）の事業は、「学び続ける教員の育成推進事業」の1事業で、成果指標の達成度が低く、実施内容の見直しが求められます。今後は働き方改革を考慮しつつ、令和4年4月改正の「豊田市教員人材育成プラン」に基づき、学校現場のOJTをより活性化させ、集合研修やオンライン研修（動画およびライブ配信）の効果を見極め、満足感の高い研修を実施していきます。

	事業数	◎ 大変良い	○ 良い	△ 改善を要する
重点事業	15	1	13	1
	（100%）	（7%）	（86%）	（7%）

(5)第 4 次豊田市教育行政計画の推進に向けて

国、社会の現状や各種調査結果を踏まえ、2022 年 3 月に「第 4 次豊田市教育行政計画」を策定しました。第 3 次豊田市教育行政計画期間中に、国、社会の現状は大きく変化しています。

2018 年 6 月には、教育基本法に基づき、教育の振興に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、「第 3 期教育振興基本計画」が閣議決定されました。また、文部科学省が定める教育課程の基準である「学習指導要領」が約 10 年ぶりに改訂され、小学校では 2020 年度から、中学校では 2021 年度から全面実施されています。そして、新型コロナウイルス感染症の拡大は、社会だけではなく教育現場にも大きな影響をもたらしています。

そのような社会の変化を受けて、第 4 次豊田市教育行政計画では、第 3 次豊田市教育行政計画の基本理念、めざす人物像を継承しながら、新たなめざすべき教育の姿を掲げ、重点施策につなげています。特に、「自らの可能性を広げる力の育成」と「誰もが安心して自分らしく学べる場の確保」は、学校教育に関わる部分について、取組を充実しています。

社会が大きな転換点を迎える中、次代を担う子どもたちが、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、自ら判断して行動し、より良い社会や豊かな人生を切り拓いていく力を身に付けられるよう、教育の在り方の見直し、ハード・ソフト両面での環境整備を進めていきます。

自らの可能性を広げる力の育成

誰もが安心して自分らしく学べる場の確保

郷土を愛し、生涯学び、活躍できる機会の創出

家庭・学校・地域の共働の推進

4　重点施策の評価

※実績値下線：目標値以上の項目

重点施策1　一人ひとりの学びの確保

1　きめ細かな教育推進事業（学校教育課）　　各課による達成度【　○　】

重点目標　きめ細かな教育によって児童生徒一人ひとりが大切にされ、学習や学校生活に生き生きと取り組んでいる。

主な実施内容	成果指標（左：計画当初　右：2021 年度）	
・少人数学級の編制 ・少人数指導授業の指導方法の調査研究・展開 ・専門性を有する補助教員の配置	授業が楽しいと思う児童生徒の割合 ①小学生②中学生（目標値：①80.0%②70.0%）	
	①78.0%　②69.3%	①77.8%　②<u>75.3%</u>
	学校に行くのが楽しいと思う児童生徒の割合 ①小学生②中学生（目標値：①87.0%②82.0%）	
	①83.7%　②78.4%	①83.1%　②80.9%

課題　講師の正規教員採用や教員の産休、育休、病休者数の増加、特別支援学級の増加に伴う対応のため、少人数学級を実現するための常勤で勤務できる講師が不足しています。

今後　各校での講師の活用状況を調査し、学校のニーズに合った講師の任用を進めることや、大学や県人材バンク、周辺自治体と情報を共有し、不足している教員の獲得に努めることで、一人ひとりに目の行き届いた指導を一層充実させ、授業が分かり、楽しいと思う環境づくりを推進します。

2　いじめ・不登校対策事業（学校教育課）　　各課による達成度【　○　】

重点目標　いじめや不登校に対して、適切な対策・支援が行われ、子どもたちが安心して学ぶことができている。

主な実施内容	成果指標（左：計画当初　右：2021 年度）	
・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー（以下、SSW）の派遣 ・いじめ防止に向けた児童生徒の主体的な取組の推進 ・豊田市いじめ防止対策委員会によるいじめ問題対策の点検・見直し ・適応指導教室の活動内容の充実	いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う児童生徒の割合 ①小学生②中学生（目標値：①100%②100%）	
	①95.7%　②92.9%	①96.7%　②95.6%
	不登校児童生徒の出現率（1千人当たり） ①小学生②中学生（目標値：①全国平均を下回る②全国平均を下回る）　※（　　）は、全国平均の数値	
	①0.49%（0.48%） ②3.03%（3.01%）	①<u>0.84%</u>（1.00%） ②<u>3.58%</u>（4.09%） ※2020 年度値

課題　SSW への相談件数が増加し、内容も多様化、複雑化しています。他機関や学校との連携をさらに強める必要もあり、増員の必要性が高いです。また、不登校児童生徒の大幅な増加に伴い、学校内や教育委員会でできる支援の選択肢を増やす必要や、いじめの早期発見のため、児童生徒が相談しやすい体制をより強化する必要があります。

今後　十分な支援が各学校に行き届くよう、SSW の業務について見直しを行い、より効果的な学校支援体制を図るとともに、各学校の教育相談体制の強化を図り、いじめの未然防止、早期発見、早期対応を進めていきます。

3 特別支援教育の推進事業（学校教育課）　各課による達成度【 ○ 】

重点目標　障がいのある児童生徒一人ひとりの教育的ニーズが把握され、「多様な学びの場」を通して適切な支援が行われている。

主な実施内容	成果指標（左：計画当初　右：2021 年度）	
・特別支援教育に関する教職員研修の実施 ・小・中学校と専門機関とのブロックサポート体制の推進 ・障がいのある児童生徒の相談体制の強化	就学相談会の利用者数（目標値：180 人）	
	150 人	321 人
	特別支援教育ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰが、子どもへの適切な支援のために、保護者や関係機関との相談ができていると回答する学校の割合　①小学校②中学校（目標値：①100%②100%）	
	①92%　②80%	①100%　②100%
	個別の教育支援計画の作成率　①特別支援学級②通常学級（目標値：①100%②100%）	
	①100%　②81%	①100%　②84%

課題　ブロックサポート体制における情報交換、情報共有の実施方法の見直しや、障がい福祉課等関係機関との連携があげられます。

今後　多様化する障がい種に対応した教員研修の実施や、ブロックサポート体制を活用した情報交換、情報共有の仕組みの再構築を検討していきます。また、相談支援体制の強化や、個別の教育支援計画を活用した学校間の引継ぎ及び関係機関との連携を強化していきます。

4 外国人児童生徒教育事業（学校教育課）　各課による達成度【 ○ 】

重点目標　国籍にかかわらず、全ての子どもが、適切な教育を受け、将来の進路を見据えた支援が行われている。

主な実施内容	成果指標（左：計画当初　右：2021 年度）	
・外国人児童生徒サポートセンターの活動内容の充実 ・日本語教育適応学級担当教員の指導力向上、及び学校日本語指導員の支援力向上 ・就学前の外国人幼児を対象としたプレスクール事業の拡大 ・初期日本語指導教室「ことばの教室」での指導の充実	教科学習支援のあり方を検討し、指導している学校（JSL 対話型アセスメント（DLA）実施校）の割合（目標値：90.0%）	
	22%	55%
	外国人生徒の進学率と進学先での定着率 ①卒業後の進学率②卒業後の進学先での定着率（目標値：①98.0%②90.0%）	
	①92.0%　②87.2%	①91.0%　②98.0%

課題　教員の指導力向上（児童生徒のことばの力に応じた授業構成力）が課題となっています。また、ことばの教室への入室が難しい児童（保護者の送迎ができない）への在籍校での同等の支援体制の構築や、DLA の結果を基にした特別の教育課程・個別の支援計画の作成の充実と実際の指導への連結が必要です。

今後　外国人児童生徒等アドバイザーによる日本語教育適応学級担当教員加配校の管理職への指導・助言の機会を確実に設けられるよう、訪問回数を前後期各1回以上とします。これにより、教員の指導力向上のための支援機能の一層の充実を図るとともに、加配校のみではなく、外国人児童生徒等が在籍する学校への訪問も実施し、外国人児童生徒等教育を推進します。また、より実践的な研修内容の充実を図ることで、教員及び学校日本語指導員の力量向上、管理職の意識改革を目指します。

重点施策2　課題を解決する力の育成

1 「主体的・対話的で深い学び」推進事業（学校教育課）　各課による達成度 【 ○ 】

重点目標　教員による指導方法の工夫・改善が活発に行われ、児童生徒の主体的・対話的で深い学びが実現している。

主な実施内容	成果指標（左：計画当初　右：2021 年度）	
・学力向上授業モデルの活用 ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習・指導方法の工夫・改善 ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた研修の充実	主体的・対話的で深い学びができていると思う児童生徒の割合 ①小学生②中学生（目標値：①85%②80%）	
	①78.1%　②77.0%	①83.9%　②84.6%
	主体的・対話的で深い学びの視点による指導方法の工夫・改善を行っている学校の割合 ①小学校②中学校（目標値：①90%②85%）	
	①85.6%　②78.6%	①84.0%　②78.5%

課題　主体的・対話的で深い学びの視点による指導方法の工夫や改善といった、教員の指導力向上が必要です。また、教員の各種研修を生かした校内での指導体制の改善や充実が求められます。

今後　主体的・対話的で深い学びの視点による指導方法の工夫・改善が各学校で図られるよう、指導方法の動画作成とその周知や、教員の経年研修等で研修を実施していきます。

2 ICT活用・整備推進事業（学校教育課）　各課による達成度 【 ○ 】

重点目標　ICT機器の整備が進められ、子どもたちがICTを活用することにより、協働的に考えをまとめたり、表現したりする学習が増加している。

主な実施内容	成果指標（左：計画当初　右：2021 年度）	
・ICT機器の活用研修会の実施 ・ICTの効果的な活用につながる実践研究 ・新しい授業スタイルに適したICT機器整備の推進	ICT機器を活用した授業時間／月　①小学校②中学校（目標値：①24 時間②24 時間）	
	①15.4 時間 ②16.3 時間	①48.2 時間 ②31.9 時間
	児童生徒がICTを活用して効果的に学習することができていると回答する学校の割合 ①小学校②中学校（目標値：①全国平均以上②全国平均以上）　※（　　）は、全国平均の数値	
	①56.0%（69.8%） ②44.6%（61.0%）	①71.3%（70.9%） ②62.5%（65.7%）

課題　教員の ICT 機器活用指導力に格差が生じている傾向があります。

今後　「豊田市の情報化推進プラン（2021～2025）」に基づき、学習支援ソフトによる協働的な学び、デジタルドリル教材による個別最適な学びの推進を図ります。また、教員の ICT 活用指導力向上のための研修を計画的に実施することや、教員が自律的に受講できるよう、動画配信や e ラーニングのオンライン研修を実施します。校務系と授業系のネットワークの統合することで授業及び校務を改善していきます。

3 学び続ける教員の育成推進事業（学校教育課）　　各課による達成度 【 △ 】

重点目標　人材育成プランに示されたキャリアステージに応じた教員研修が実施され、高い指導力と学ぶ意欲を持った教員が育っている。

主な実施内容	成果指標（左：計画当初　右：2021 年度）	
・小･中学校における校内研修の充実 ・教員向けの各キャリアステージに応じた研修の充実 ・教員評価制度の活用 ・勤務時間外の在校時間の削減	校長のリーダーシップのもと、研修リーダー等を校内に設け、校内研修の実施計画を整備するなど、組織的、継続的な研修を「よく行っている」と回答する学校の割合①小学校②中学校（目標値①75%②65%）	
	①58.1%　②50.0%	①54.7%　②35.7%
	教職員が校内外の研修に参加し、その成果を教育活動に「よく反映させている」と回答する学校の割合 ①小学校②中学校（目標値：①40%②30%）	
	①31.1%　②21.4%	①25.3%　②17.9%

課題　新型コロナウイルス感染症の拡大が影響し、他校への訪問研修を中止するなど計画の変更を余儀なくされた学校の状況がありました。

今後　働き方改革を考慮しつつ、令和 4 年 4 月改正の「豊田市教員人材育成プラン」に基づき、学校現場の OJT をより活性化させていきます。また、集合研修やオンライン研修（動画およびライブ配信）の効果を見極め、満足感の高い研修を実施していきます。キャリアステージに合わせた充実した研修を構築していきます。

ICT機器を使用した授業の様子

重点施策3　地域資源を生かした学習・活動機会の創出

1　市民によるアートプロジェクト推進事業（文化振興課）　　各課による達成度 【 ○ 】

重点目標　市民の主体的な参画による文化芸術活動が行われ、文化を通して社会貢献や魅力発信を行う市民が増えている。

主な実施内容	成果指標（左：計画当初　右：2021 年度）	
・市民主体の文化事業の開催 ・とよたデカスプロジェクトの開催	アートサポーター（市民ボランティア）登録者数（累計）（目標値：120 人）	
	―	201 人

課題　アートサポーター（市民アートプロジェクトメンバー）のイベントや市民アートプロジェクトへの積極的な参加・協力体制の構築が必要です。

今後　市民アートプロジェクト、とよたデカスプロジェクトを継続して実施し、アートサポーターの登録者数を増やすとともに、活躍の場を作ることで、自らアートプロジェクトを企画・運営できる人材が育つことを目指します。

とよた市民アートプロジェクト
（まちなか芸術祭）

2 トップアスリート・スポーツチーム応援・活用事業（スポーツ振興課）

各課による達成度 【 ○ 】

重点目標　国際的スポーツイベント等の開催を契機に、スポーツに触れる機会が充実し、市民が一体感を持ってスポーツを楽しむ機運が高まっている。

主な実施内容	成果指標（左：計画当初　右：2021 年度）	
・本市ゆかりのスポーツチームやトップアスリートの応援事業の実施 ・トップアスリート等を授業に派遣する「夢の教室」の開催 ・本市ゆかりのスポーツチームやトップアスリート等による教室等の開催	スポーツチームや本市ゆかりのトップアスリートと市が連携した取組への延べ参加者数 （目標値：毎年度 15,000 人以上）	
	11,009 人	4,131 人

課題　新型コロナウイルス感染症の拡大などの影響があり、予定していた事業を全て実施することができず、成果指標に定めた参加者数を達成することはできませんでした。

今後　関係団体との連携を深めつつ、新型コロナウイルス感染症などの問題がある中で、実施できる内容を柔軟に検討していきます。

3 郷土学習推進事業（文化財課）　各課による達成度【 ○ 】

重点目標　市民力を生かした歴史や文化財の普及・啓発活動が行われ、郷土を愛する人が増えている。

主な実施内容	成果指標（左：計画当初　右：2021 年度）	
・学校と連携した「郷土学習スクールサポート」の推進 ・「とよた歴史マイスター」の育成 ・「とよた歴史マイスター」による市の歴史・文化財の普及・啓発活動の推進	「とよた歴史マイスター」が参画する博学連携事業や講座等の延べ参加者数（目標値：5,740 人）	
	4,266 人	3,170 人

課題　新型コロナウイルス感染症の拡大、流行により、歴史マイスターが参画する事業や講座等の開催が制限されました。

今後　博物館の開館に向けて、博学連携事業を充実させていくために、学習プログラムの開発と改善を進めていきます。

4 ものづくり教育プログラム事業（市民活躍支援課）　各課による達成度【 ○ 】

重点目標　子どもがものづくりや科学に触れる機会が多く、興味・関心を持つ子どもが増えている。

主な実施内容	成果指標（左：計画当初　右：2021 年度）	
・ものづくり教育プログラムの実施 ・ものづくりサポーターの増員 ・ものづくりサポーターの資質向上及び次期リーダーの育成	ものづくり教育プログラムの体験児童数 （目標値：2,500 人）	
	―	2,433 人
	①「子どもたちが興味・関心を持ってものづくり活動に取り組んでいた」と回答する小学校の割合 ②「プログラムを次年度も活用したい」と回答する小学校の割合（目標値：①85%②85%）	
	―	①100%　②100%

課題　サポーターの新規入会者と退会者が同数程度おり、目標に向けた増員ができませんでした。サポーターの高齢化に伴い、退会者は今後も増えることが見込まれるため、より一層精力的な新規サポーターの獲得が必要になります。また、新型コロナウイルス感染症の拡大、流行により、サポーター研修会が実施できなかったため、スキル向上が図れませんでした。

授業形態を変え、密を避け安全に実施できるよう工夫しましたが、今後も継続して感染対策への配慮が求められます。2021 年度は応募した学校・学年の半数が落選となったため、より多くの学校へものづくり教育を提供できるような仕組みを検討する必要があります。

今後　新規サポーターの獲得に向け、①シニアアカデミー初めの一歩講座の開催、②市民活動センターのボランティア募集記事への掲載、③広報とよた特集ページへの活動内容や募集記事の掲載など、新たな取組により、サポーター数の増員を目指します。また、落選校への救済措置や、感染拡大などによりサポーターが派遣できない場合の対応策として、材料提供方法の見直しやサポーター派遣の代用となる動画作成について検討します。

重点施策4　家庭・学校・地域の共働の推進

1　コミュニティ・スクール推進事業（学校教育課）　　各課による達成度 【 ○ 】

重点目標　中学校区の単位で、学校間及び学校と地域が連携する仕組みが作られ、地域ぐるみによる教育が効果的に実施されている。

主な実施内容	成果指標（左：計画当初　右：2021 年度）	
・コミュニティ・スクールの指定拡大に向けた推進委員会の充実 ・地域ぐるみで教育を推進するコミュニティ・スクール連絡会議の充実	コミュニティ・スクールの指定数 （目標値：全中学校区（28 中学校区）） 4 中学校区	28 中学校区
	中学校区で教育目標を共有する取組を行っている学校の割合 ①小学校②中学校（目標値：①80%②80%） ①44.6%　②42.8%	①18.6%　②46.4%

課題　新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、コミュニティ・スクール連絡会議が十分に行えなかったため、教育目標を共有した十分な協議をもつことができませんでした。また、教育協議会（校長が作成する学校運営の基本方針を共有し、教育活動の充実に向けた取組等を協議する会議）の機能強化が必要です。

今後　学校支援や地域の活性化について協議するコミュニティ・スクール連絡会議を効果的・継続的に実施できるよう、地域学校共働本部推進アドバイザーを派遣します。また、コミュニティ・スクール推進委員会の充実を図るため、取組実践等を共有します。

2　地域学校共働本部設置拡大事業（学校教育課）　各課による達成度 【 ◎ 】

重点目標　地域と学校が連携・共働する組織（地域学校共働本部）が全校に設置され、地域全体で子どもたちの成長を支えていく活動が広がっている。

主な実施内容	成果指標（左：計画当初　右：2021 年度）	
・地域学校共働本部の設置促進 ・地域コーディネーターの育成・支援	地域学校共働本部の活動に参加した地域ボランティアの延べ参加者数（目標値：66,000 人） 16,000　人	180,910 人
	学校支援ボランティアの仕組みにより、保護者や地域の人が学校における教育活動や様々な活動に参加してくれると回答する学校の割合①小学校②中学校（目標値：①毎年度 90%以上②80%） ①91.9%　②75.0%	①98.0%　②93.0%

課題　地域によってボランティア参加人数や取組内容に差があります。

今後　交流館等の公共施設と連携を取りながら、ボランティア人材の確保や、交流活動の推進を図ります。

3 家庭教育支援事業（次世代育成課）　各課による達成度【 ○ 】

重点目標　子育て仲間、地域の人、学校などとの関わりを通じて、保護者が子育てについて考え、成長している。

主な実施内容	成果指標（左：計画当初　右：2021 年度）	
・家庭教育手帳“親ノート”の配付と家庭での活用促進 ・家庭教育講座の開催支援 ・親育ち交流カフェの開催支援	小・中学校における家庭教育講座の延べ参加者数（目標値：3,500 人）	
	3,221 人	1,180 人
	「親育ち交流カフェ」の延べ参加者数（目標値：3,000 人）	
	1,742 人	143 人

課題　新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、対面型での事業の実施が難しい一方で、家庭が孤立し、家庭教育支援の必要性が高まっている状況です。2021 年度から実施しているオンライン型での事業実施をより広く市民にPRするとともに、より多くの人々に必要な情報を届けることが必要です。

今後　2022 年度から親ノートを電子化し、学習用タブレットのポータルサイトや市HPに掲載し、親ノートの配布方法を見直すとともに、家庭教育講座や親育ち交流カフェにおいて親ノートの活用を必須化し、より必要な人に親ノートの情報を届ける形にしています。また、各団体・参加者等の様々なニーズに対応できるよう、積極的に開催支援を行います。より多くの市民が親ノートや講座・カフェによる効果を得られるように、事業に関する情報やオンラインを活用した開催方法をPRします。

4 スポーツ習慣促進事業（スポーツ振興課）　各課による達成度【 ○ 】

重点目標　地域でスポーツをする機会が増え、子どもや中高齢者の体力が維持・向上するとともに、地域住民のスポーツ習慣が定着している。

主な実施内容	成果指標（左：計画当初　右：2021 年度）	
・子ども向けのコーディネーショントレーニング教室の充実 ・中高齢者向けの健康教室の充実 ・ウオーキング事業の充実	地域スポーツクラブやスポーツ推進委員のスポーツ教室等の参加者数①中学生以下の子どもの延べ参加者数②新たに参加した中高齢者の人数（目標値：①220,000 人②毎年度 300 人以上）	
	①192,373 人　②－	①192,033 人　②210 人

課題　新型コロナウイルス感染症拡大等の影響により、予定していた事業を全て実施することができず、成果指標に定めた参加者数を達成することはできませんでした。

今後　関係団体との連携を深めつつ、新型コロナウイルス感染症や熱中症への問題がある中で、実施できる内容を検討していきます。

5　基本施策の評価

※進捗状況の区分：A予定通り　Bやや遅れ　C遅れ　D完了　Eその他（延期・廃止等）

基本施策1　生き抜く力を育む学校教育の推進

（1）状態指標の状況

4つの状態指標の中で、めざす方向に進展した項目は、「自分の住む地域が大好きだという児童生徒の割合（中学生）」、「全国学力・学習状況調査で、全国の平均正答率と同等又は上回った調査数（小学生）（中学生）」、「学校に行くのが楽しいと思う児童生徒の割合（中学生）」、「全国体力・運動能力等調査における実技調査（新体力テスト）の全国平均以上の種目数（全8種目）（小学生男子）（小学生女子）（中学生女子）」の7項目です。

2021 年度全国学力・学習状況調査の具体的な実績としては、小学生が「国語」と「算数」、中学生が「国語」と「数学」の調査対象全教科において、全国の平均正答率と同等となりました。また、2021 年度全国体力・運動能力等調査における実技調査の具体的な実績としては、小学生男子が「握力」、小学生女子が「握力」と「長座体前屈」、中学生男子が「握力」と「50m走」、中学生女子が「握力」と「長座体前屈」と「ソフトハンドボール投げ」について、全国平均以上の結果を残しました。

状態指標の状況一覧（実績値下線：めざす方向に進展した項目）

状態指標	めざす方向	計画当初	実績値
自分の住む地域が大好きだという児童生徒の割合 ①小学生　②中学生 【出典：教科等に対する意識調査】	⇧	①55.4% ②27.4% （2017）	①55.4% ②<u>29.3%</u> （2021）
全国学力・学習状況調査で、全国の平均正答率と同等又は上回った調査数 ①小学生（全4調査：国語A、国語B、算数A、算数B） ②中学生（全4調査：国語A、国語B、数学A、数学B） ※2021 年度は、①小学生（全2調査：国語、算数） ②中学生（全2調査：国語、数学）	⇧	①1 調査 ②4 調査 （2017）	①<u>2 調査</u> ②<u>2 調査</u> （2021）
学校に行くのが楽しいと思う児童生徒の割合 ①小学生　②中学生 【出典：全国学力・学習状況調査】	⇧	①83.7% ②78.4% （2017）	①83.1% ②<u>80.9%</u> （2021）
全国体力・運動能力等調査における実技調査（新体力テスト）の全国平均以上の種目数（全8種目） ①　小学生　②中学生	⇧	①0（男子） 1（女子） ②4（男子） 2（女子） （2017）	①<u>1（男子）</u> <u>2（女子）</u> ②2（男子） <u>3（女子）</u> （2021）

（2）進捗状況

18 事業のうち 14 事業が A（予定通り）、3 事業が B（やや遅れ）となりました。E（延期・廃止等）の事業は、「小児生活習慣病予防事業」の1事業で、接触を伴う事業のため、新型コロナウイルス感染症拡大により、一時休止をしました。今後は、事業の見直しを検討していきます。

進捗状況一覧

番号	事業名	事業概要	担当課	進捗状況
1	きめ細かな教育推進事業（重点 1-1）		学校教育課	A
2	いじめ・不登校対策事業（重点 1-2）		学校教育課	B
3	特別支援教育の推進事業（重点 1-3）		学校教育課	B
4	外国人児童生徒教育事業（重点 1-4）		学校教育課	A
5	「主体的・対話的で深い学び」推進事業（重点 2-1）		学校教育課	A
6	ICT活用・整備推進事業（重点 2-2）		学校教育課	A
7	学び続ける教員の育成推進事業（重点 2-3）		学校教育課	B
8	コミュニティ・スクール推進事業（重点 4-1）		学校教育課	A
9	地域学校共働本部設置拡大事業（重点 4-2）		学校教育課	A
10	園小中連携事業	学びのつながりを重視した園小連携による「新わくわく・いきいきプラン」の活用を推進。学区の特性を生かした小中連携を推進するモデルプランを作成	学校教育課	A
11	中高連携事業	市内の公立高校の特色ある取組や魅力をPRする「豊田市高等学校魅力発見フェスタ」を開催。中学生を対象にした高校教員の出前授業を実施	学校教育課	A
12	英語教育の推進事業	新学習指導要領実施に伴う英語の教科化を見据え、授業改善への取組や教育課程の編成等、英語教育を推進	学校教育課	A
13	貧困状態にある子どもへの支援事業	学校を窓口とした福祉関係機関との連携及び就学援助制度等による経済的な支援を推進	学校教育課	A
14	特色ある学校づくり推進事業	地域に開かれ地域に愛される学校となるよう、地域の文化や芸術に関わる活動、交流や勤労生産に関わる活動等を推進	学校教育課	A
15	道徳教育の推進事業	新学習指導要領実施に伴う道徳の教科化を見据え、授業改善への取組や教育課程の編成等、道徳教育を推進	学校教育課	A
16	子どもの体力向上推進事業	児童生徒の体力向上のため、体育指導の充実と「子どもの体力向上プログラム」の取組を推進	学校教育課	A
17	学校給食による食育事業	学校給食を活用し、食に関する理解と適切な判断力を養うための指導を実施	保健給食課	A
18	小児生活習慣病予防事業	児童生徒の生活習慣病を予防するため、学校健康診断を活用してハイリスク者を抽出し、2 次検査や健康教育・相談を実施	保健給食課	E

※進捗状況の区分：取組計画に対する進捗状況をA～Eの5つに区分

A：予定通り（90％以上）、B：やや遅れ（50％以上 90％未満）、C：遅れ（50％未満）、D：完了、E：その他（延期・廃止等）

基本施策2　安全･安心で快適に学べる教育環境の充実

（1）状態指標の状況

3 つの状態指標「人口増加に伴い教室不足が発生する可能性のある学校数」、「老朽化対策を必要とする学校数」、「施設更新を必要とする給食センター数」のすべてにおいて、めざす方向に進展しています。

本計画期間中に、教室不足解消の対応として、朝日丘中学校を増築しました。老朽化対策として、小学校 10 校、中学校 6 校、特別支援学校 1 校の計 17 校について、保全改修を実施しました。保全改修事業は、2022 年度の 8 校の改修工事を終えると、計画の全 87 校が完了する予定です。また、老朽化した北部給食センターと藤岡給食センターを統合し、北部給食センターを移転新築しました。

状態指標の状況一覧（実績値下線：めざす方向に進展した項目）

状態指標	めざす方向	計画当初	実績値
人口増加に伴い教室不足が発生する可能性のある学校数 （年度末時点）	⇩	11 校 （2017）	10 校 （2021）
老朽化対策を必要とする学校数 （年度末時点）	⇩	25 校 （2017）	8 校 （2021）
施設更新を必要とする給食センター数 （年度末時点）	⇩	2 施設 （2017）	0 施設 （2021）

北部給食センター　移転新築

(2)進捗状況

5 事業のうち 2 事業が A(予定通り)、3 事業が D(完了)となり、計画通りに事業を推進しました。

進捗状況一覧

番号	事業名	事業概要	担当課	進捗状況
1	校舎増築事業(朝日丘中学校)	既設校舎を増改築し、生徒数増加に伴う教室不足に対応	学校づくり推進課	D
2	学校施設保全改修事業	老朽化が進む学校施設を保全改修し、安全・安心で快適な教育環境を確保	学校づくり推進課	A
3	学校トイレ再整備事業(第2期)	トイレの洋式化を推進し、快適な学校生活環境を確保	学校づくり推進課	A
4	学校空調設備設置事業	日常的に学習で使用する教室等のエアコン整備を推進し、安全・安心で快適な教育環境を確保	学校づくり推進課	D
5	北部給食センター改築整備事業	老朽化した北部給食センターと藤岡給食センターを統合し、北部給食センターの移転新築整備を実施	保健給食課	D

※進捗状況の区分:取組計画に対する進捗状況をA～Eの5つに区分

A:予定通り(90%以上)、B:やや遅れ(50%以上 90%未満)、C:遅れ(50%未満)、D:完了、E:その他(延期・廃止等)

朝日丘中学校校舎増築事業

学校トイレ再整備事業

基本施策3　暮らしを豊かにする学習活動の支援

（1）状態指標の状況

3 つの状態指標の中で、めざす方向に進展した項目は、「交流館の利用経験」の 1 項目です。2020 年度調査の「学校以外の読書頻度（週に1日以上）」の実績値が伸び悩んだ理由としては、電子メディアの閲覧頻度の影響があると予測されます。2020 年度に実施した「豊田市の教育に関するアンケート調査」では、電子メディアの閲覧頻度の時間が長くなるほど、読書頻度が少ない傾向がありました。今後は、子どもたちが本を手に取る機会が増えるよう、家庭や学校教育の中で読書活動の支援を継続して行う必要があります。

状態指標の状況一覧（実績値下線：めざす方向に進展した項目）

状態指標	めざす方向	計画当初	実績値
交流館の利用経験（3 年以内） 【出典：豊田市の教育に関するアンケート調査】	⇧	31.5% （2016）	<u>49.3%</u> （2020）
中央図書館の年間延べ利用者数	⇧	822,562 人 （2016）	812,708 人 （2021）
学校以外の読書頻度（週に1日以上） ①　小学生　②中学生 【出典：豊田市の教育に関するアンケート調査】	⇧	①54.9% ②39.3% （2016）	①53.1% ②38.3% （2020）

中央図書館の夏休みの講座の様子

(2)進捗状況

7 事業のうちすべての事業が A(予定通り)となり、計画通りに事業を推進しました。

進捗状況一覧

番号	事業名	事業概要	担当課	進捗状況
1	交流館運営事業	利用ルールの緩和や地域の特性に合った運営を進めるとともに、市民の活躍の機会をコーディネートする支援機能を強化	市民活躍支援課	A
2	中央図書館管理運営事業	豊田市中央図書館運営基本方針を踏まえた、効果的・効率的な図書館の管理運営を実施	図書館管理課	A
3	図書館システム事業	図書資料を市内全域で活用できるように、中央館と交流館図書室等をネットワーク化し、「どこでも借りられ、どこでも返却できる」サービスを提供	図書館管理課	A
4	図書資料デジタル化事業	保存・活用を目的とした図書資料(主に郷土資料)のデジタル化及び電子書籍の検討	図書館管理課	A
5	図書資料の充実と環境整備事業	身近に本のある環境を整え、多くの本に出会えるようにするため、施設における図書資料の購入や、学校や放課後児童クラブへの団体貸出等を実施	図書館管理課	A
6	図書資料の活用機会創出事業	本の楽しさと感動を伝えるとともに、本の活用能力を身に付ける機会を創出するため、ブックスタート、出前講座、啓発活動等を実施	図書館管理課	A
7	子どもと本をつなぐ人材育成支援事業	子どもと本をつなぐ人を増やすため、読書相談(レファレンス)の充実、学校図書館司書の配置、読み聞かせボランティアの育成等を実施	図書館管理課	A

※進捗状況の区分:取組計画に対する進捗状況をA～Eの5つに区分

A:予定通り(90%以上)、B:やや遅れ(50%以上 90%未満)、C:遅れ(50%未満)、D:完了、E:その他(延期・廃止等)

基本施策4　地域による次世代人材の育成の促進

（1）状態指標の状況

3 つの状態指標の中で、めざす方向に進展した項目は、「地域の行事や活動に参加している割合（小学校高学年）（高校生）」、「外出頻度の少ない若者の割合（青少年）」の 3 項目です。特に、「地域の行事や活動に参加している割合」については、新型コロナウイルス感染症拡大以前の実績値のため、今後はより悪化する可能性があります。

状態指標の状況一覧（実績値下線：めざす方向に進展した項目）

状態指標	めざす方向	計画当初	実績値
地域の行事や活動（ボランティア活動、地域の祭り、ボーイ・ガールスカウトなど）に参加している割合 ①小学校低学年　②小学校高学年　③中学生　④高校生　⑤青少年（19 ～29 歳） 【出典：豊田市子ども・子育てに関する市民意向調査】	⇧	①85.2% ②85.1% ③74.5% ④34.4% ⑤21.1% （2013）	①82.2% ②<u>86.4%</u> ③72.4% ④<u>38.1%</u> ⑤18.4% （2018）
外出頻度の少ない若者の割合 （「ふだんは家にいるが自分の趣味に関する行事の時だけ外出する」又は「ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」又は「自室からは出るが、家からは出ない」又は「自室からほとんど出ない」） ※その状態になってから 6 か月以上に及ぶ人の割合 ①高校生　②青少年（19 ～29 歳） 【出典：豊田市子ども・子育てに関する市民意向調査】	⇩	①1.9% ②4.6% （2013）	①2.8% ②<u>3.6%</u> （2021）
家庭の教育力に満足している市民の割合 【出典：豊田市の教育に関するアンケート調査】	⇧	26.6% （2016）	25.4% （2020）

(2)進捗状況

5 事業のうち 3 事業が A(予定通り)、1 事業が B(やや遅れ)となりました。C(遅れ)の事業は、「家庭教育支援事業」の 1 事業で、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、対面型での事業の実施が難しく、事業の進捗に影響がありました。今後は、より多くの市民が事業の効果を得られるように、事業に関する情報やオンラインを活用した開催方法をPRしていきます。

進捗状況一覧

番号	事業名	事業概要	担当課	進捗状況
1	家庭教育支援事業(重点 4-3)		次世代育成課	C
2	子どもの主体性を育む家庭・地域推進事業	子どもたちが自ら行動し、様々な課題を解決する力を育むため、家庭や地域と連携し、活動の場や挑戦する機会づくりを推進	次世代育成課	B
3	学生によるまちづくり提案事業	学生に地域の活動やイベント等の情報を発信し、地域や社会への参加を促進する企画提案型の事業を実施	次世代育成課	A
4	学生とハタラクをつなぐプロジェクト事業	学生に働くことの意義や社会で求められる能力の理解を深めるため、市内の企業等の経営者や社会人との交流の機会を提供	次世代育成課	A
5	若者サポートステーション事業	自立に困難を抱える若者が就労や社会参加等を行うため、関係機関による包括的な体制で自立に向けた支援を実施	次世代育成課	A

※進捗状況の区分:取組計画に対する進捗状況をA～Eの5つに区分

A:予定通り(90%以上)、B:やや遅れ(50%以上 90%未満)、C:遅れ(50%未満)、D:完了、E:その他(延期・廃止等)

学生によるまちづくり提案活動の様子

基本施策5　まちへの誇りや愛着につながるものづくり学習の推進

（1）状態指標の状況

3 つの状態指標の中で、めざす方向に進展した項目は、「ものづくりに興味のある児童生徒の割合（小学生）（中学生）」、「子どものものづくり学習を支える企業・団体等の数」の 3 項目です。また、「子どもを対象とした、ものづくりや科学の講座・イベントへの参加者数」については、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、ものづくりや科学の講座の中止や、とよたものづくりフェスタ事業を 2020 年度から WEB 開催へ変更したため、参加者数が減少しました。

状態指標の状況一覧（実績値下線：めざす方向に進展した項目）

状態指標	めざす方向	計画当初	実績値
ものづくりに興味のある児童生徒の割合 ①小学生　②中学生 【出典：豊田市の教育に関するアンケート調査】	⇧	①79.4% ②54.4% （2016）	①<u>80.7%</u> ②<u>64.4%</u> （2020）
子どもを対象とした、ものづくりや科学の講座・イベントへの参加者数	⇧	45,852 人 （2016）	22,040 人 （2021）
子どものものづくり学習を支える企業・団体等の数 （年度末時点）	⇧	100 団体 （2016）	<u>120 団体</u> （2021）

とよたものづくりフェスタ事業

(2)進捗状況

5 事業のうち 2 事業が A(予定通り)、3 事業が B(やや遅れ)となりました。

進捗状況一覧

番号	事業名	事業概要	担当課	進捗状況
1	ものづくり教育プログラム事業(重点 3-4)		市民活躍支援課	B
2	とよたものづくりフェスタ事業	子どもたちが様々なものづくりを体験・体感できるイベントを、ものづくり団体、大学、高校、中学校等と連携して開催	市民活躍支援課	A
3	クルマづくり究めるプロジェクト事業	子どもたちが、プロからクルマづくりを学び、挑戦する活動を自動車関連企業と連携して実施	市民活躍支援課	A
4	匠の技に学ぶものづくりプロジェクト事業	和紙、鍛冶屋、竹細工といった豊田市らしいものづくりを職人から学ぶ講座を実施	市民活躍支援課	B
5	科学技術教育推進事業	主に中学生・高校生を対象とし、企業、大学、関係団体等と連携したハイレベルのものづくり・科学講座等の開催や生徒の活躍を支援	市民活躍支援課	B

※進捗状況の区分:取組計画に対する進捗状況をA～Eの5つに区分

A:予定通り(90%以上)、B:やや遅れ(50%以上 90%未満)、C:遅れ(50%未満)、D:完了、E:その他(延期・廃止等)

ものづくり教育プログラム事業

クルマづくり究めるプロジェクト事業

基本施策6　スポーツ資源を生かした生涯スポーツの推進

（1）状態指標の状況

4 つの状態指標の中で、めざす方向に進展した項目は、「市民の週 1 日以上のスポーツ実施率」、「過去 1 年間にスポーツボランティア活動をした市民の割合」の 2 項目です。

また、「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることが好きな児童生徒の割合」は、小学生の男女、中学生の男女ともに減少しています。2020 年度に実施した「豊田市の教育に関するアンケート調査」によると、子どもの学校以外での運動・スポーツの実施頻度は、小中学生ともに前回調査（2016 年度実施）から減少しています。小中学生に対する運動やスポーツへの意識醸成とともに、実践につなげることが必要です。

状態指標の状況一覧（実績値下線：めざす方向に進展した項目）

状態指標	めざす方向	計画当初	実績値
市民の週 1 日以上のスポーツ実施率 【出典：豊田市の教育に関するアンケート調査】	⇧	54.1% （2016）	55.7% （2020）
過去 1 年間にスポーツを観戦した市民の割合 【出典：豊田市の教育に関するアンケート調査】	⇧	33.4% （2016）	29.1% （2020）
過去 1 年間にスポーツボランティア活動をした市民の割合 【出典：豊田市の教育に関するアンケート調査】	⇧	4.3% （2016）	5.2% （2020）
運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることが好きな児童生徒の割合 ①小学生　②中学生 【出典：全国体力・運動能力、運動習慣等調査】	⇧	①91.6% （男子） 86.1% （女子） ②88.9% （男子） 80.1% （女子） （2017）	①91.4% （男子） 85.7% （女子） ②88.2% （男子） 77.9% （女子） （2021）

(2)進捗状況

8 事業のうち 4 事業が A(予定通り)、2 事業が B(やや遅れ)、2 事業が D(完了)となりました。

進捗状況一覧

番号	事業名	事業概要	担当課	進捗状況
1	トップアスリート・スポーツチーム応援・活用事業(重点 3-2)		スポーツ振興課	A
2	スポーツ習慣促進事業(重点 4-4)		スポーツ振興課	A
3	障がい者スポーツの推進事業	障がい者スポーツに対する理解促進や障がい者と健常者が一緒に楽しめる場をつくる人材を育成	スポーツ振興課	B
4	健康スポーツの普及事業	ウオーキングを中心とした健康スポーツ普及のための啓発活動やイベントを開催	スポーツ振興課	A
5	(仮称)松平地域体育館等整備事業	スポーツの振興や健康の増進に向け、多くの市民が気軽に利用できる体育館及び広場を整備	スポーツ振興課	D
6	(仮称)梅坪台運動広場整備事業	スポーツの振興や健康の増進に向け、多くの市民が気軽に利用できる運動広場を整備	スポーツ振興課	D
7	スポーツ施設保全改修事業	老朽化が進むスポーツ施設を保全改修し、安全・安心で快適なスポーツ環境を確保	スポーツ振興課	A
8	スポーツ指導者育成事業	企業・大学・スポーツ協会等と連携し、専門的なスポーツ指導者を育成するための講座を開催	スポーツ振興課	B

※進捗状況の区分:取組計画に対する進捗状況をA～Eの5つに区分

A:予定通り(90%以上)、B:やや遅れ(50%以上 90%未満)、C:遅れ(50%未満)、D:完了、E:その他(延期・廃止等)

松平体育館

基本施策7　歴史や文化財課の継承と価値や魅力の発信

（1）状態指標の状況

３つの状態指標「主要文化財施設の総入館者数」、「郷土の歴史・文化に誇りや愛着を持っている市民の割合」、「住んでいる地域の歴史・文化財に興味のある児童生徒の割合（小学生）（中学生）」のすべてにおいて、めざす方向に進展しています。今後は、2023 年度開館予定の博物館新設に向けて、より歴史や文化財の価値や魅力が広く市民に共有され、郷土愛が育まれるよう、事業を推進していきます。

状態指標の状況一覧（実績値下線：めざす方向に進展した項目）

状態指標	めざす方向	計画当初	実績値
主要文化財施設の総入館者数	⇧	130,770 人 （2016）	139,666 人 （2021）
郷土の歴史・文化に誇りや愛着を持っている市民の割合 【出典：市民意識調査】	⇧	44.2% （2016）	48.5% （2021）
住んでいる地域の歴史・文化財に興味のある児童生徒の割合 ①小学生　②中学生 【出典：豊田市の教育に関するアンケート調査】	⇧	①46.6% ②33.9% （2016）	①51.1% ②38.5% （2020）

博物館外観イメージ図

(2)進捗状況

9 事業のうち 8 事業が A(予定通り)、事業を推進しました。E(延期・廃止等)の事業は、「郷土芸能継承事業」の 1 事業で、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、民俗芸能団体の事業の一時休止や、大会の中止がありました。

進捗状況一覧

番号	事業名	事業概要	担当課	進捗状況
1	郷土学習推進事業(重点 3-3)		文化財課	A
2	歴史文化基本構想活用事業	地域の歴史と文化財を保護・活用していくためのマスタープランとして、歴史文化基本構想を策定し、市民との共働による価値発信を推進	文化財課	A
3	郷土資料館・近代の産業とくらし発見館・歌舞伎伝承館展覧会・講座開催事業	市民や来訪者が、文化財等の展示を通じて地域の歴史・文化の素晴らしさを知るための機会を創出	文化財課	A
4	「新修豊田市史」編さん事業	郷土の歴史をまとめ後世に伝えるために、市史を刊行	文化財課	A
5	博物館整備事業	歴史・文化財や関連する自然についての展示、学習支援・交流、調査・研究、収蔵を推進する博物館を整備	文化財課	A
6	郷土芸能継承事業	郷土芸能を次世代へと継承し、その素晴らしさを広く共有するため、団体の活動継続を支援し、発表等による価値発信の機会を創出	文化財課	E
7	旧龍性院庭園・松平氏遺跡整備事業	国名勝旧龍性院庭園及び国史跡松平氏遺跡を保護・活用していくための計画策定と整備を推進	文化財課	A
8	足助歴史的町並み保存活用事業	市民や来訪者が、足助の町並みの魅力と価値を知る機会や、町並み保存についての理解を深める機会を創出	文化財課	A
9	足助歴史的町並み保存整備事業	重要伝統的建造物群保存地区の中心的な建物である旧鈴木家住宅の修理・復原を行い、歴史的町並みを活用する中核拠点を整備	文化財課	A

※進捗状況の区分:取組計画に対する進捗状況をA～Eの5つに区分

A:予定通り(90%以上)、B:やや遅れ(50%以上 90%未満)、C:遅れ(50%未満)、D:完了、E:その他(延期・廃止等)

基本施策8　文化芸術を生かしたまちの魅力づくりの推進

（1）状態指標の状況

4 つの状態指標の中で、めざす方向に進展した項目は、「文化芸術に興味のある市民の割合」、「文化芸術に興味のある児童生徒の割合（小学生）（中学生）」の 3 項目です。

また、「文化芸術の鑑賞・見学を行っている市民の割合」や「文化芸術活動を行っている市民の割合」は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、実績値が減少していると予測されます。

状態指標の状況一覧（実績値下線：めざす方向に進展した項目）

状態指標	めざす方向	計画当初	実績値
文化芸術に興味のある市民の割合 【出典：豊田市の教育に関するアンケート調査】	⇧	58.5% （2016）	60.9% （2020）
文化芸術の鑑賞・見学を行っている市民の割合 【出典：豊田市の教育に関するアンケート調査】	⇧	72.8% （2016）	69.6% （2020）
文化芸術活動を行っている市民の割合 【出典：豊田市の教育に関するアンケート調査】	⇧	28.5% （2016）	27.6% （2020）
文化芸術に興味のある児童生徒の割合 ①小学生　②中学生 【出典：豊田市の教育に関するアンケート調査】	⇧	①54.6% ②45.2% （2016）	①58.6% ②51.1% （2020）

（2）進捗状況

13 事業のうち 10 事業が A（予定通り）、3 事業が D（完了）となり、計画通りに事業を推進しました。

進捗状況一覧

番号	事業名	事業概要	担当課	進捗状況
1	市民によるアートプロジェクト推進事業（重点 3-1）		文化振興課	A
2	あいちトリエンナーレ推進事業	国内最大級の国際芸術祭である「あいちトリエンナーレ 2019」を豊田市で開催。その開催機運を高めるために、現代芸術作品展等を行う「あいちトリエンナーレ地域展開事業」を実施	文化振興課	D

番号	事業名	事業概要	担当課	進捗状況
3	東京キャラバン事業	東京オリンピック・パラリンピック公認文化プログラムの一つとして、地域の文化と、演劇・ダンス・音楽等を融合させた新しい表現の創造事業を豊田市で実施	文化振興課	D
4	美術館展覧会開催事業	近代から現代、最新の美術動向を紹介する展覧会等をバランスよく開催し、市民が美術に触れ、学び、交流する場や機会を提供	美術館	A
5	美術館教育普及活動事業	市民が美術に触れる楽しさや意味を見出し、作家や作品、美術館活動に対する理解を深めることができる環境づくりや事業を開催	美術館	A
6	民芸館展覧会・講座開催事業	市民や来訪者が、民芸の展示や陶芸等の体験講座を通じて、手仕事の美しさや素晴らしさを知るための機会を創出	文化財課	A
7	民芸の森活用事業	市民や来訪者が名誉市民・故本多静雄氏の旧邸の森や建物、氏のコレクション等を生かした、民芸を始め様々な文化活動を行う機会を創出	文化財課	A
8	舞台芸術人材育成活用・創造事業	舞台芸術に係る人材のさらなる育成や活動機会の拡大、創造的要素を取り入れた事業を実施	文化振興課	A
9	財団との連携による文化推進事業	文化継承を目的とした「おいでんアート体験フェア」やアートによる地域の魅力創出を図る「農村舞台アートプロジェクト」など、（公財）豊田市文化振興財団と連携し、文化芸術に親しむ環境づくりを推進	文化振興課	A
10	民芸館・民芸の森の運営を担う人材育成事業	民芸館の講座スタッフの育成や民芸の森での市民共働の運営を行う市民や団体の育成を推進	文化財課	A
11	市民文化会館施設機能長寿命化・拡充事業	施設設備や機能の長寿命化対策、バリアフリー対策及びニーズに合わせた機能の見直し等の整備を実施	文化振興課	A
12	コンサートホール施設機能長寿命化・拡充事業	音響機器、空調設備、電気設備の修繕及び長寿命化対策を実施し、安全・快適に芸術を楽しめる環境を整備	文化振興課	A
13	美術館施設機能長寿命化・拡充事業	施設の長寿命化及び利用者の安全性確保と利便性向上のため、大規模修繕、レイアウト変更、駐車場整備等を実施	美術館	D

※進捗状況の区分：取組計画に対する進捗状況をA～Eの5つに区分
A：予定通り（90％以上）、B：やや遅れ（50％以上 90％未満）、C：遅れ（50％未満）、D：完了、E：その他（延期・廃止等）

発行･編集　豊田市教育委員会　教育政策課
〒471-8501　豊田市西町 3-60
電話(0565)34-6658
FAX(0565)34-6771
E-mail　kyouiku@city.toyota.aichi.jp
ホームページ　http://www.city.toyota.aichi.jp/